



光受寺通信

H.29年2月1日 発行
発行者 光受寺
<http://koujyuji.com/>

昨年の除夜の鐘は、お天気もよく暖かったことからか、多くの方に来ていただくことができました。ただ少々さみしく思われたことはご門徒の方が意外に少なかったことでしょうか。

かつてある方から「ご院さん、今年の初詣ではどこかへ行かれましたか」と聞かれ、大いに戸惑ったことがあります。多くのご門徒さんの意識にはお正月という、やはり神社へとの思いが強く働いてしまうのでしょうか。

この意識は日本人の心にはすっかり定着してしまっているようで、テレビ番組などでも家内安全に商売繁盛、合格祈願に恋愛成就といった念願成就を話題としたものが多いように思われます。お正月というのは、やはり煩惱の花を咲かせてみたい絶好の時節なのではないでしょうか。

それに代わり、お寺やお内仏に身を置くということは、煩惱に振り回されて生きている凡夫の身が知らされていく厳しい場であるわけです。そしてそれはまた煩惱に遮られた目(闇夜)を取り除き、仏さまの明るい目をいただき、幸せをいただいでいく場でもあるといえるのです。

お正月こそ心静かに仏の心に聞いていく良い機会なのではないでしょうか。

他力の生活

M・M

真宗の教えは他力の教えであることは、おぼろげながら認識しておりましたが、年々とも他力の考えに立つ心の在り方の大切さをかみしめるようになりました。

七十歳代「一切他力・一切受容」を十年目標に定め、心がけました。私どもの矛盾は、他力の教えを聴聞しながら日常的に自力の生活を行ってまいります。浄土の信心につながる為には「自力から他力の切り替え」が不可欠となります。自分の生活では何事も当たり前と受け取る事が多く、しみじみとした味わいのある精神生活は望めません。

何年か前に経験したことです。家庭菜園で「わしが作る」と思っていました。しかしよく考えてみますと人間のやることは些細なことで、全部自然が育ててくださるものだと考えるのが正しい受け取りになります。それは、家庭菜園は自然が主役であり、人間はほんの一部をお手伝いするにすぎないと考えるようになりました。平成二十二年三月通信投稿(それからは自然の恵みを感じながら感謝の思いで作業を行うようになりました。自力から他力への切り替えを思いつくままに書き出しますと次のようになります。

- ① 呼吸をさせてくださる。
- ② 作物を育ててくださる。
- ③ 食事をさせてくださる。
- ④ 間法をさせてくださる。
- ⑤ 日々生かしてくださる。
- ⑥ 念仏させてくださる。
- ⑦ 眠らせてくださる。
- ⑧ 努力させてくださる。
- ⑨ 目覚めさせてくださる。
- ⑩ 反省させてくださる。

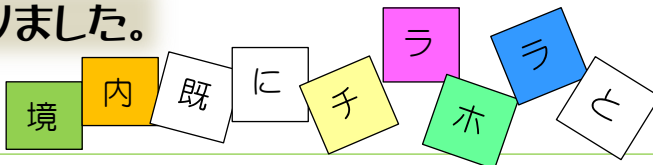
私どもは守られ生かされる身である
ことを深く自覚する必要がある、その
中から自ずと他力の思考をもつよう
になります。すべては阿弥陀様が差し
向けて下さるものとして、他力の思い
を深めていけば、自然に敬虔感謝の念が高まり、念
仏三昧の生活が訪れるものと信じています。



観梅ポスターができました。



2月25日(土)~
3月12日(日)



厳しい寒さの中、境内の梅もゆうやく咲き始めました。

今年も梅をご縁に多くの来寺者をお迎えいたしたいと思っております。手作りのポスターも作ってみました。なかなか思うようには出来上がりませんでした。

今年も催しはほぼ例年のごとくではありますが、ギャラリーでは「色鉛筆画」展を開催する予定です。

梅に、雛に、書画と、春の一日をお楽しみいただければ幸いです。

多くの方のご来寺お待ちしております。

春季永代経のご案内

「ご参詣お待ちしております。」

三月二十日(月) 春分の日 午前午後 齋あり) 法話 寺族にて

「ご先祖の願いご出会える日となるよう願っております。」



1月14日(土)おでんを囲んで懇親会が開かれました。



この冬一番の寒気襲来。

そんな中、光受寺では温かなおでんを囲んで懇親会が開かれました。

毎年有志の企画によるこの会は、もう十年近くになります。年々盛大になってきたように思われます。今年も二十名の参加でしたが、新しくご参加くださった方もあって、輪の広がりが感じられました。

変わらぬ味のおでんと、どて煮には絶品!でした。ありがとうございました。

笑える話? 笑えない話?

「ご門徒さんが交通安全講習会でいただかれ、その資料から。抜粋」

十八歳と八十一歳のちがひ。

- 恋に溺れるのが十八才。
- 風呂で溺れるのが八十一才
- 道路を暴走するのが十八才
- 道路を逆走するのが八十一才
- 東京オリンピックに出たいのが十八才
- 東京オリンピックまで生きたいのが八十一才
- 自分を探している十八才
- みんなが自分を探している八十一才



除夜の鐘

十二月三十一日

今年の除夜会は暖かな夜でした。

十一時四十五分から撞き始めたのですが、すでに多くの列ができていました。一日一番に並んでくれた人は十一時から来ているという、ここ数年一番並びの少年でした。うれしい年明けとなりました。参加者およそ二百名。



本堂に参詣する人たち